

MADD 被害者支援プログラムの基礎

MADD の使命

MADD の使命は、飲酒運転の防止と、この暴力犯罪の被害者の支援をすることである。

—MADD の各支部は、「被害者を支援する」ことが求められる。支援は、被害家族への思いやり深い気遣いと、彼らが耐えている痛みとを尊重することに始まる。情報や支援を提供することにより、MADD 被害者擁護者は迅速なサービスを提供すると同時に、使命声明(mission statement)を成し遂げる中で、後に MADD に加わるべき人々を動員し始めている。—

「被害者」とは誰か

MADD の方針およびガイドラインにおける「被害者」の定義は：

- (1) 飲酒運転者によって傷つけられた人、または、(2)飲酒運転手によって殺された、または傷つけられた人の近親者（親、配偶者、子ども、兄弟姉妹）。

上述の定義には、義父母、養父母、また、将来の兄弟姉妹や生まれてくる子ども、被害家族の義理の縁者をも含んでいる。しかし、「被害者」という言葉は、サービスを提供する際には上述の定義を越えて拡張されている。

被害者擁護者は捜査官ではない。それゆえ、擁護者は主に当人の被害者としての自己定義に頼らなければならない。被害者に「該当しない」人に対してサービス拒否を正当化するのは非常に困難である。個人が、自分が飲酒運転の被害者だと感じているなら、概してそれは本当である。しかし、犯罪者は被害者とは見なされない。これは単に、彼らに薬物依存の家族がいたり、他の問題を抱えているためである。

飲酒運転中に自らを殺してしまった犯罪者の家族や友人は、被害者で見なされるかもしれない。その家族が罪を犯したのではなく、運転者が罪を犯したのだからである。

MADD は近隣の人々や衝突の目撃者、また、メディアを通じて衝突を知り、深く心を動かされている人に対してもサービスを提供する。MADD は、アルコールや他の薬物のテストが行われていない者によって引き起こされた衝突に巻き込まれた人を支援することもある。衝突の中には、逮捕されていない、あるいは、テストに間に合うように逮捕されなかったひき逃げ犯によって引き起こされたものもある。犯罪者がその場に残っていた場合でも、様々な理由でテストが行われないこともあるし、テストされたとしても血中アルコール濃度(BAC)が.00 以上ではあるが、法

的制限以下のこともある。

飲酒運転者にひかれた酩酊した歩行者の家族や、酩酊した運転手の車に乗った乗客も被害者と見なされるかもしれない。酩酊した自分の両親や養育者によって運転された車で殺されたり負傷したりした子どもたちは、サービスが必要な被害者である。

衝突によっては、その事件を直接には引き起こさなかった飲酒運転手が含まれているときがある。よくあるケースとして、両運転手が酔っぱらっているのだが、衝突に対しては一方に、あるいは一方により責任があるという場合がある。不当にも飲酒運転衝突で負傷するか殺されるかした罪のない被害者の中には、シートベルトをしていさえすれば助かったかもしれないものもある。MADD はこうした被害者やその家族に対してサービスを控えることはない。MADD は呼ばれば、アルコールや他の薬物が含まれていない自動車衝突での負傷者や死亡者の中で生き残った人に対して情動的な支援を行うこともある。これは MADD が、有益な情報を適用できる組織として認められているためである。

複雑なケースにおいては、擁護者は特定の被害者にサービスを提供することが、ある意味で、支部の中で既に活動している他の被害者を再被害化しないかどうか査定すべきである。もしそうであれば、他の被害者を犠牲にしてある被害者を支援するのは賢明とは言えない。たいていの例では、支持や理解が痛みの絆の共有から生じてきて、それが罪や非難を超えた。しかし、こうしたことが起こらなければ、その支部と最初の接触をとった被害者がサービスを受けるべきで、後で MADD に接触をとった被害者はほかのところにリファーされる。

これらのガイドラインは包括的なものではない。もし特定のケースで困ったことがあれば、サービスオプションについて話し合うために MADD の被害者支援部門(Victim Assistance Department)(1-800-GET-MADD)にお電話ください。

「被害者擁護者」とは何か

被害者擁護者とは、被害者やその家族に対する情動的支援、犯罪司法制度に則ったガイダンス、および衝突に関連する他のニーズに関してリファーを行う人である。擁護 Advocacy とは、被害者に要求された場合には、書面、あるいは電話で被害者本人を「代弁」ということをも意味する。

MADD のほとんどの被害者擁護者は、専門的な訓練も受けておらず、資格があるわけでもないが、支援サービスの中でのトレーニングが、国または州の被害者支援講座を通じて求められている。免許のある、あるいは資格のある専門家ではない被害者擁護者は、自らを「セラピスト」ま

たは「カウンセラー」と名乗ってはならない。

擁護者は被害者を「クライアント」や「患者」とは呼ばないかもしれない。与えられるサービスは、準専門的または相互扶助や相互ガイダンスである。

MADD の擁護者は被害者である必要はない。約 70%は自分自身が被害に遭っており、それが時に信頼性を付与するときもある。しかし、MADD の最も優れた擁護者の幾人かは、被害者ではない人たちである。

支部は被害者擁護者として、あるいは、被害者支援グループを指導するために、専門のカウンセラーを雇うこともある。専門家の中には、ボランティアでこれらのサービスに従事するものもある。こうしたケースでは、カウンセラーはその専門の倫理規定を維持し、治療過誤で最低 50 万ドル保証の保険に加入することを求められる。専門のカウンセラーに関する詳細は、87-94 ページに記載されている。